

## 正村公宏名誉教授の基調講演でスタート 大学院主催公開講座



大学院主催の公開講座(鶴田俊正運営委員長)が「21世紀における市民社会とは—仕事・地域・環境からの接近」を共通テーマに、7月5日から神田キャンパスでスタートした(11月15日まで全10回)。社会への“知”の発信をめざす同講座は、5研究科のスペシャリストが3分野から21世紀の中止テーマにアプローチ、未来の市民社会の姿を探求する。

7月5日の第1回は、鶴田教授が司会、出牛正芳学長があいさつしたのち正村公宏名誉教授が「21世紀の展望と課題」と題し、基調講演を行なった。

正村名誉教授は、20世紀はインダストリアリズム(産業・商業主義)、デモクラティズム、ナショナリズムが思想の潮流としてあったが「産業・商業主義」に都合の良い制度・社会にしたために経済・家庭・教育・環境問題等は危機に陥っている。

21世紀はこれらの思想を超える新しい文明を創造していかなければならない。そのキーワードの一つは「環境」ではないかと述べ、21世紀を展望した。

[7月15日/ニュース専修3面]